

新基地建設反対名護共同センター ニュース

戦後80年 今年こそ新基地建設断念を！

辺野古の浜で「初興し」！

二〇二五年元旦、辺野古の浜に二五〇人が集い、「初興し」(へり基地反対協主催)が開催されました。

新年を祝うとともに、辺野古新基地建設阻止の決意を新たに集う集会です。早朝の七時、東の空の雲は厚く薄暗いなかで、かぎやで風、こえん節など祝いの席で披露される古典音楽が奉納演奏されました。砂浜では、鳩間節、谷茶前(たんちやめ)などの琉球舞踊が披露され、華やいだ雰囲気になっていきます。

浦島悦子(へり基地反対協)共同代表は、「昨年末、御用納めも終わった十二月二十八日、国は『大浦湾の軟弱地盤改良工事に着手した』と全国に向け大々的に宣伝しました。しかしその内実は、わずか二時間、トレミー船(砂撒き船)から砂を投げ入れただけのパフォーマンスに過ぎず、今後必要となる海底の敷き砂、七万一千本にも及ぶ砂杭に必要な膨大な量の海砂調達の見途は全く立っていないのが実情です。にもかかわらず敢えて『軟弱地盤工着手』と強弁したのは、一昨年の代執行から丸一年経つても、工事がなかなか進まないことへの焦りと面子にすぎません」と厳しく批判。「沖縄戦から八〇年の節目を迎えた今年こそ、地元住民・県民、そして志を同じくする全国の仲間の方々とともに、この無理・無駄・無謀な基地建設を断念させ、基地のない平和な沖縄、戦争のない国・世界へ向けてともに歩んでまいりましょう。」と力強くあいさつしました。



米兵の少女暴行に抗議！沖縄県民大会に2500人余

2024年12月22日に沖縄県民大会が沖縄市の沖縄市民会館大ホールで開催されました。平和団体や労組など130余の団体による実行委員会が主催。実行委員共同代表の伊良波純子会長が主催者挨拶をし、「求めているのは当たり前な安心安全暮らしだ」と強調。

玉城デニー県知事も駆け付け、米軍基地あるがゆえに不条理を強いられ続ける沖縄の状況を国際社会に訴える意義を指摘。10月の国連女性差別撤廃委員会に参加した親川裕子共同代表は、同委員会が初めて在沖縄米軍の性暴力に言及する勧告を日本政府に出したことを報告。



若者を代表して中塚静樹さんと崎浜空音さんが登壇し、「沖縄の人権と平和を守るために諦めず発信しよう」、「絶対に繰り返さない」と訴えました。沖縄高校生平和ゼミナールで活動する生徒たちのアピールもビデオ上映され、多くの参加者が涙ぐみながら大きな拍手を送りました。被害者への謝罪とケア、補償や事件発生時の迅速な情報提供、日米地位協定の抜本的改定などを求めた大会決議文を神谷めぐみ共同代表が読み上げ、参加者の大きな拍手で採択されました。



金曜昼デモ 初歩きに三四人

一月三日(金)、県庁周りを歩く「金曜昼休みデモ」の初歩きが行われました。昨年は十数人の小さいデモでしたが、この日は「新年初歩き」のピラを出し、三四人が参加して長い列ができました。

このデモは、一九八四年二月十七日、県原水協、統一連、平和委員会の提唱で「核トマホークくるな昼休みデモ」として始まりました。今年でなんと(一)四一年で。この日は二一三回目です。名称は「核戦争阻止、核兵器緊急廃絶めざす核トマホークくるな昼休みデモ」になりました。各地域で頑張っているなつかしい顔が沢山みえました。私たちに日本被団協のノーベル賞受賞が大きな励みになりました。

この日は出発前に三線演奏があり、実行委員長の佐事安夫さん、事務局長の島袋朝一さん、三線教師の大城直さんの三人が、八重山の「鷲ぬ鳥節」を弾きました。横断幕を赤嶺政賢さん、渡久地修さん、山里将進さん、ち、マイクでシユプレヒコールをしたのは嬉野京子さんでした。歩いたあと、島袋あさこさんがつくられたおいしいぜんざいが配られ、佐事さん、渡久地さん、赤嶺さんが、「核兵器がなくなるまで続けよう」と元氣な挨拶をなさいました。そして大城さんの三線で、「一坪たりともわたすまい」「月桃」「沖縄を返せ」を皆で歌いました。最後は前田ちひろさんの「がんばろー」で閉じ、おなかも心も満足でした。どうぞ皆さん、金曜日に集まりましょう。もしかしたら日本で一番？の長く続く、現代最重要の反核デモです。歩けない方は道横の石に座っていて下さっても意思表示になると思います。(芝憲子)



写真提供・中澤とも子さん